

第1号様式（第7条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先)	京 都 市 長	平成 27 年 7 月 31 日
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市伏見区深草塚本町67	報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 学校法人 龍谷大学 専務理事 赤松 徹眞 電話 075-645-7877
京都市地球温暖化対策条例第22条第2項の規定により報告します。		
環境マネジメントシステムの名称	K E S	
適用範囲	深草学舎	
導入年月日	2014年3月31日	
認証番号	K E S 1 - 1 3 2 3	
基本方針	すべての教育、研究、社会貢献活動の環境影響を低減するため環境影響活動を推進して地球環境との調和を目指す。	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	(1) エネルギー使用量・CO2排出量の削減（原単位1%の削減） ※基準年度2012年度 (2) 紙の使用量の削減（コピーカウント数の3%の削減） ※基準年度2012年度 (3) 一般廃棄物排出量の削減 (4) 産業廃棄物排出量の削減	
目標を達成するための取組の内容	(1) エネルギー使用量の削減・CO2排出量の削減（原単位1%の削減） ①空調温度・運転方法の適性管理 ②間欠運転の実施 ③廊下やトイレ等 unnecessaryな照明の消灯 (2) 紙の使用量の削減（コピーカウント数の3%の削減） ①コピーカウント数削減の推進 ②事業所におけるスキャナ使用の推進 ③複合機能の周知（まとめ印刷） (3) 一般廃棄物排出量の削減 (4) 産業廃棄物排出量の削減 ①リサイクル化を促進する分別ごみ箱等の整備	
目標を達成するための取組の進捗状況	(1) エネルギー使用量の削減・CO2排出量の削減（原単位1%の削減） ①②BEMSから得られるデータを活用し、冷凍機の設定温度変更や間欠運転を適宜行っている。 ③廊下等共用部を中心に間引き点灯を実施している。 (2) 紙の使用量の削減（コピーカウント数の3%の削減） ①②③各部署に掲示物等で複合機の機能を活用した紙の使用量削減を周知するとともに、コピーカウント数の多い部署には注意喚起を適宜行っている。 (3) 一般廃棄物排出量の削減 (4) 産業廃棄物排出量の削減 学生にアンケートを実施し、ごみ減量・リサイクル促進に効果があると思われるごみ箱を調査し、これにもつきごみ箱の整備計画を策定した。（一部の建物で分別種類を増やしたりリサイクル化を促進するごみ箱を新規に設置した） 古紙回収BOXを増設した。	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	<取り組み期間：2014年4月～2015年3月> (1) エネルギー使用量の削減・CO2排出量の削減（原単位1%の削減）【基準年度2012年度】 全ての月においてA評価となった。 (2) 紙の使用量の削減（コピーカウント数の3%の削減）【基準年度2012年度】 B評価となる月があった。B評価が2ヶ月以上続いた際にはコピーカウント数が上昇傾向にある部署に対して注意喚起を行った。 (3) 一般廃棄物排出量の削減 (4) 産業廃棄物排出量の削減 ごみ減量・リサイクル促進に向けた、ごみ箱の再整備計画をまとめ、2015年度実施に向け、予算措置も行うことができた。A評価となった。 ※定性評価基準：達成度 A良好（100%以上達成）、Bやや不足（90%以上100%未満達成）、C不適合（90%未満）	
事業活動に係る法令の遵守の状況	不適合は発生していないが、発生及び発生を予測した場合は直ちに修正・予防処置を行う。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	(1) エネルギー使用量・CO2排出量の削減、(3) 一般廃棄物排出量の削減、(4) 産業廃棄物排出量の削減 の3点に関しては、目標を達成しているが、(2) 紙の使用量の削減に関しては、目標を達成できない月があった。2015年度は、2014年度よりも学内構成員が増加することもあり、引き続き「基準年度を2012年度とし、3%以上の削減を行う」ことを目標とした。そして、紙の使用量削減に向け、各部署にエコスタッフを配置し、各方策の実効性を高めることとした。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。